たくさんの人にかこまれて

－知的障がい者のスポーツ活動・スペシャルオリンピックス－

緊張から解放されてホッとひといき
スキー練習後のハルミさん

汗と金メダルがキラリ☆（左から２番目）
－代々木公園陸上競技場にて－

通勤寮拓心館では、利用者の方たちの充実した余暇支援の一環として、知的障がい者のスポーツ活動を行っているスペシャルオリンピックスに参加しています。

『スペシャルオリンピックス』とは、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供しており、ケネディ財団の支援を受け、国際オリンピック委員会から「オリンピック」の名称使用を認められている世界的なスポーツ組織です。スペシャルオリンピックスが提供する継続的なスポーツ活動は、参加者（アスリート）の健康や体力増進、スキルの向上や促進ばかりではなく、多くの人々との交流を通じて社会性を育んでいくというメリットがあります。

拓心館からは、前田ハルミさんがアスリートとして参加しています。今、彼女は2月に行われる「冬季長野大会」で、直滑降・グライドの種目に参加するため、週末はスキーの練習に励んでいます。

練習場所である大鰐スキー場までの道のりも、周りの方たちの協力で一から教えてもらい、今ではすっかり一人で切符を買って電車に乗れるようになり、元気な声で「行ってきます」と出掛けて行きます。このように公共の交通手段を活用できるようになったことも、スペシャルオリンピックスを通しての彼女の成長の一つです。

一昨年の夏、日曜日のたびに陸上の練習に向かう彼女の姿がありました。『２００２年夏季ナショナルゲーム・東京』に50メートル走で参加するためです。ベストを尽くし自己記録を更新するという目標はもちろんありましたが、何よりも練習場に行って仲間に会えることがとても楽しみな様子でした。アスリート仲間やその家族、ボランティアやコーチ…多くの人たちとの交流もまた、彼女にとって練習が楽しいと思える一つだったようです。

「いよいよ本番」という日、他のアスリートから良い刺激をもらいながら、彼女は練習の成果を存分に発揮しました。見事一着でゴールし、金メダルを手にした彼女は、練習で関わってきた仲間たちと喜びを分かち合い（拍手・万歳・記念撮影の嵐！）、そして表彰台での誇らしげな笑顔は、達成感でいっぱいだった印象があります。

ハルミさんは練習から帰ってくると、その日の練習内容や仲間のことを話します。スペシャルオリンピックスに参加し、活動に関わるたくさんの人たちとの交流によって彼女の世界は広がり、生活もより充実してきたのではないかと思います。また、大会参加のたびに休暇をいただくなど、職場の方や多くの人たちの支えがあってこそ、彼女の生活が成り立っていることを忘れず、２月の長野大会でも頑張ってもらいたいと思います。

峰のひかり

発行人
社会福祉法人　七峰会
理事長　奥田　稔

〒036－8356
青森県弘前市大字下白銀町21－８
電　話（0172）33－8861
ＦＡＸ（0172）33－8862

特集　支える

施設はその利用者に色々なサービスを提供していますが、一方では各方面から有形無形の支援も受けています。「閉鎖的でないために」「地域での理解者として」「本人の望む生活をかなえるために」など、意義は様々です。今回は、そんな支援者の多彩さに注目し、特集してみました。

働ける場所
―利用者が勤める企業―

知的障害者通勤寮
拓心館

拓心館グループを利用している方々は、目下、失業している数人を除いて、ほとんどが勤めに出ています。働くことを通じて社会参加している、と換言できますが、これを安定して長年に亘って行うことは、言うまでもなく個人の努力を要します。

その一方で各事業所では、一人ひとりについてその火となりを知り、理解し、認めた上で雇用を継続してくれています。「朝○時から夕方の○時まで、与えられた仕事をこなしてほしい」。一口に言っても、スタンダードな動きがいつでもできるとは限りません。話し合い、工夫し、時には叱咤してでも改善を目指してくれます。

『株式会社小林紙工』の取り組み

弘前市にあるこの会社には、拓心館グループ利用者の2名がお世話になっている他、多数の障がいを持った方々が働いています。その意義について、社長の小林二郎氏にお話をうかがいました。

「格好いいことを言うわけではないが、同じ人間として働く場は提供していきたい。実際には動きが芳しくなく、注意することもある。でも、それは本人のため思ってのことで、どうすれば習得に結びつくのか、"適材適所"についても常に考えて対応している」

「障がいを持った方たちを雇うことによって、周りの人間が成長できる一面もある。"こんなこともできないのか"と、うっちゃってしまえばそれまでだが、一生懸命取り組む姿を見ると教えられることも多い。心の修行につながっていると感じている」また、「長く働いてもらえば人情もわく。いろいろな面をカバーしながら、最後まで、"もう働けない"と本人が言うまで、きちんと面倒を見ろと、社員には話している」と、おっしゃいました。

地域生活へ向けて

「施設を出て地域生活を送りたい」という希望を実現・継続するには、福祉年金のみの収入では難しい現状にあります。本人らしい生活を送るためにも、働く場所を持っているかいないかは大きなポイントと言えます。本人の努力のみならず、後ろで支えてくれる人たちがいてこその就労であると、再認識した次第でした。改めて感謝申し上げ、今後の活動に活かしたいと思います。

「一日のほとんどを現場に立っている」
とおっしゃる小林社長

花のこころを知るために
―華道サークルボランティア―

知的障害者更生施設
拓光園

拓光園では、多くのボランティアの方々に利用者の生活を支えていただいております。行事のお手伝いや外出の付き添い、理美容ボランティアや衣類の補修など多岐に亘っていますが、今回はサークル活動を支援してくださっている方をご紹介します。

利用者の中からお花の生け方を習いたいという声が上がり、園に華道サークルが生まれたのはもう3年前になります。

スタート当時から講師としてご協力いただいているのは、田舎館村中央公民館にお勤めの相馬鉄郎さんです。相馬さんは、華道池坊正教授で『相馬深泉』という号をお持ちです。

華道サークルは男子1名女子8名で構成されていますが、相馬さんは月1回の活動の日には必ず来園し、優しくご指導してくださっています。また、園の作品展や拓光園祭の折には、前日に園を訪れ作品を手直ししてくださいます。

障がいを持った方にお花の生け方を教えるのは初めての相馬さんでしたが、「利用者の方が熱心で一生懸命な姿勢にびっくりした。」と話していらっしゃいました。利用者の方々も「お花の先生」と親しく呼んで、指導いただくことを楽しみにしています。

お花のこころと美しさを知りながらお作法も学ぶことができると好評の華道サークル。入会希望者も徐々に増え、相馬さんの善意に支えられ、今後も園内の美化に一役買うことと思います。

多くの方々とのふれあいの中で
―介護実習を通して―

特別養護老人ホーム
サンアップルホーム

サンアップルホームでは、介護福祉士養成校の介護実習やホームヘルパーの養成実習、また、中学校や大学からの介護実習、さらには小・中学校の教員を対象とした実習などを積極的に受け入れています。

それぞれの実習では、きちんとしたプログラムが組まれ、それを基に、目的意識をもった実習が展開されています。オリエンテーションから始まり、施設長による講話、介護現場の状況説明から直接介護へと進んでいきますが、こちらがきちんとした受け入れ態勢で臨むことにより、実習を受ける側もより積極的に取り組む姿勢を見せており、実のある実習につながっています。今回は主な実習として、2つをご紹介したいと思います。

・介護福祉士養成校実習

弘前市内の弘前福祉短期大学と弘前女子厚生学院が、実習先として利用しています。介護実習は、第一段階～第三段階までに分かれており、それぞれの実習は約一か月におよびます。そのこともあり、利用されている方々とは、自然と顔なじみにもなります。期間中は職員と共に介護に携わり、利用者一人ひとりの生活支援の違いを学び、高齢者への理解を深めていきます。また、実習の終盤に行われる実習生が企画する「集団レクリエーション」は、喜びと笑いがある内容で好評を博しており、実習生との交流を心待ちにしています。

・中学校介護体験実習

今年度は、弘前市内の第一中～第五中、北辰中、船沢中が来園されました。車椅子の操作方法や、おもりを体に巻きつけての障がい者疑似体験をします。体験後は口々に「バランスをとるのが難しい」「こんなに大変だとは思わなかった」等の感想が聞かれます。そして一日のまとめとして、職員の見守りのもと、食事介助に取り組みます。生徒さんからは緊張の声も多く聞かれますが、ひとつずつスプーンで介助した後に、その方から「ありがとう」のお礼を言われ、涙を浮べる生徒さんもいました。

また最近では、歌や演劇を披露してくれる学校も多く、相互交流の場として重要な役割を果たしています。

地域の中で
―授産製品を通して、地域とのふれあいを大切に―

社会就労センター
旭光園

旭光園の授産製品には、ポリ袋製品、完封割り箸、ラベル製品などがあります。これまではPR不足もあり、ご近所の方々が直接利用されることは少なく、事業所やお店などへの販売が主でした。

ところが、最近になって広報誌『峰のひかり』や口コミで小売の情報が広がり、旭光園まで買いに来てくれるご近所の方々が増えてきました。地域指定のゴミ袋・台所用の小さなポリ袋から、漬け物樽用の大きなポリ袋などを求める方が多く、他には自家製りんごジュースのビンに貼るラベルのご注文もあります。

また、毎年秋に催される『尾上町福祉センター祭り』にも出店していますが、毎年訪れてくれる"お馴染みさん"ができるほどに定着してきました。「安くてとてもお得だ」「近所で買えるから便利だ」といった声が聞かれます。

ゴミ袋などは決して華やかな製品ではありませんが、普段の生活には欠かせないものです。だからこそ確かな製品に仕上げることを心掛けています。

喜ばれる製品作りをしてお買い上げいただくこと、そして、商品を通して地域の方々との交流があることが、私たちの励みであり支えになっていると思っています。

より力強いきずなを
―山郷館家族会について―

身体障害者療護施設
山郷館

七峰会関連施設（基幹施設）には、全施設に「家族会（利用者家族の会）」があり、日頃から法人並びに施設活動について多くのご支援を受けております。ただ、家族会が組織されていることは周知されていても、その内容については意外に理解する機会が少ないのではないでしょうか。そこで、「山郷館家族会の場合」ということで、活動内容をご紹介させていただきたいと思います。

山郷館家族会『山友会』が組織されたのは、開設年の昭和54年にさかのぼります。「施設利用者の自立支援、施設生活の向上を図るために積極的に施設に協力する」ことを目的としています。現在、会員は55名（賛助会員を含む。正副会長3名、理事5名、幹事2名で構成）で、山郷館利用者のご家族と前利用者のご家族です。

具体的な活動内容としては、①法人及び施設行事への協力②施設運営に対する家族としての意見反映③施設への奉仕活動④研修会への参加⑤利用者の日常生活を高めるための物的援助、等を主な活動としています。

現在最も重要と位置付けていることは、「介護保険や支援費制度となり、利用者と施設が対等の関係で利用契約し、自立支援に向けて取り組むという一致した方針のもとに、施設利用する立場から施設運営について積極的に意見を出していただく」ということです。とかく、施設に身内がお世話になっているからということで受身となるのではなく、利用者の生活を豊かにしていくために家族としても積極的に関わることによって、施設運営の向上につながっていくのだという視点です。

時代とともに親も高齢化し、ご家族にとっても親から子へと世代交代しておりますが、思いは変わっておりません。今後とも力強いご支援をお願い申し上げます。

新年互礼会を開催

平成16年1月6日（火）、『ホテルニューキャッスル』において、「社会福祉法人七峰会　新年互礼会」が開催されました。

恒例となった研修会では、今年は黒石市落合温泉『花禅の庄』の女将・石澤照代様を招き、開催いたしました。

石澤様からは、「私は生まれも育ちも津軽で四児の母。文字通りの〝津軽のチャカシッコ〟」と、ユーモアあふれる自己紹介がありました。続いて、旅館を経営していく中でのいろいろなエピソードを交えながら、時代に合ったサービスとは何か、お客様に喜ばれるサービスとは何かを、お一人おひとりの声に耳を傾けながら、試行錯誤の中で一つずつ成果につなげていくことの大切さや、津軽の文化を発展させていきたいとの思いをご講演くださいました。

年頭訓示では、奥田稔理事長より、今後の社会福祉情勢の中で、法人役職員が一丸となって取り組むことへの確認や、職員一人ひとりが周囲から期待され、組織の中で役立つ人間になって欲しい、との希望が述べられました。

続いてご来賓を代表し、弘前市長・金沢隆様よりお祝辞を、また、岩木町長・田中元様より乾杯のご発声を賜り、新たな年への出発にあたっての新年互礼会が、盛会かつ有意義に執り行われました。

感謝しています

当法人の各施設では、弘前市富田町にある『株式会社吉川広告』様より、多年にわたりカレンダー等の品々を寄贈いただいております。

「支える」という、今回特集号のテーマにもある通り、いろいろな方々のお心を頂戴し励まされていることを、改めて噛みしめる次第です。

ここに感謝申し上げ、ご報告いたします。

お詫び

1月16日に発生しました『知的障害者更生施設　拓光園』の食中毒の件では、皆様に多大なるご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。

事の重大性から、法人全体で改めて危機意識を持ち、食中毒のみならず、サービス全般に亘っての見直しを図っているところでございます。

決して同じような過ちを繰り返さないよう、誠心誠意尽くす所存でございますので、今後ともご理解とご教導のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成16年2月20日

社会福祉法人　七峰会
理事長　奥田　稔
拓光園々長　工藤　敏夫

居宅介護支援事業

山郷館居宅介護支援センター　TEL97―2941
サンアップル居宅介護支援センター　TEL97―2131

特別養護老人ホーム

サンアップルホーム　TEL97―2111
サンアップル短期入所生活介護センター
サンアップルホームデイサービスセンター
サンアップルヘルパーセンター
グループホームアップル（痴呆対応型共同生活介護）
弘前市委託事業
サンアップル在宅介護支援センター　TEL97―2131

身体障害者援護

山郷館　TEL97―2211
身体障害者（児）短期入所事業
山郷館デイサービスセンター弘前
山郷館訪問介護センター
山郷館訪問介護センター黒石
旭光園　TEL57―5155
通所相互利用事業

知的障害者援護

拓心館　TEL82―4520
地域生活援助事業
生活自立訓練事業
地域生活支援センター
勇心学園
拓光園　TEL96―2331
自活訓練事業
心身障害児（者）施設地域療育事業
・短期間入所事業
・巡回療育相談事業

総合支援

弘前市委託事業
身体障害者相談支援事業
弘前市障害者生活支援センター　TEL31―2400
青森県指定
津軽障害者就業・生活支援センター　TEL82―4520